不妊治療に関する検査について

① 卵巣機能検査

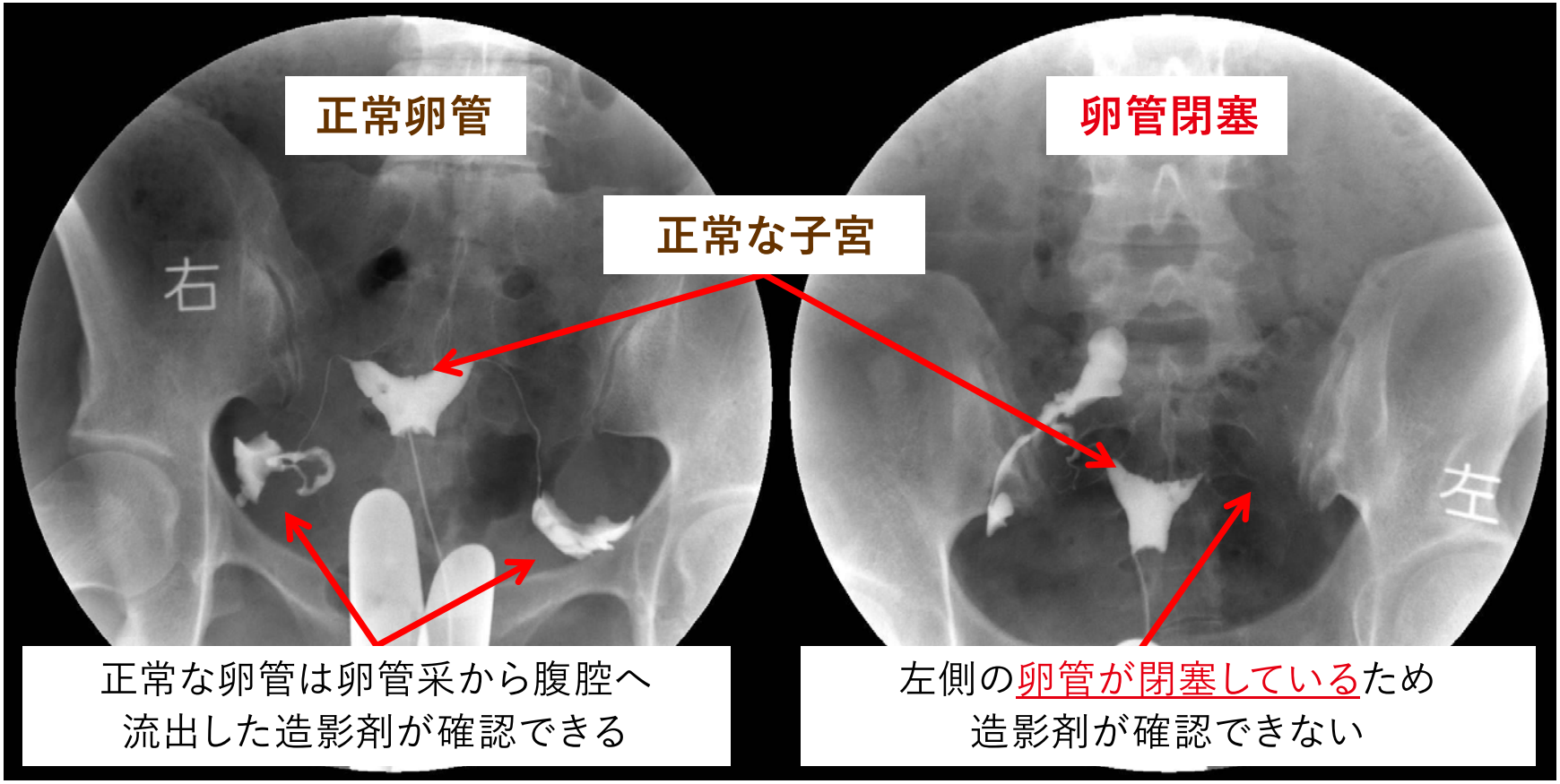
月経開始の2～3日目の低温期に行う血液検査です。
採血によりホルモンのバランスを検査し卵巣の機能を調べます。
高温期に行う血液検査もあり、これは黄体機能不全（着床障害）の有無を調べるための検査です。

② 子宮卵管造影検査

外子宮口から造影剤を注入し、子宮内腔の形状と疎通性を診断する検査です。
卵管性不妊は不妊原因の約30％を占めるため、最も重要な検査の一つです。
造影剤を卵管に注入することにより卵管の疎通性が良くなり、妊娠率が向上します。
卵管が閉塞している場合は卵管鏡下卵管形成術（FTカテーテル術）により、閉塞を改善します。

卵管造影検査

外子宮口から造影剤を注入し、子宮内腔の形状と疎通性を診断する検査。



卵管が閉塞している場合

～卵管鏡下卵管形成術（FTカテーテル術）により、閉塞を改善します～

子宮卵管造影検査（HSG）で卵管の閉塞が認められた場合、年齢、既往歴などを考慮し、FTカテーテル術を施行し、卵管の閉塞を改善します。

以前は、両側卵管閉塞の場合は体外受精を行わなければ妊娠の可能性は見込めませんでしたが、このFTカテーテル術により、体外受精することなく妊娠できる可能性があります。

FTカテーテル術により、卵管開通を確認できた症例は95症例（96.9%）、29例（29.3%）で妊娠が成立し、FTによる妊娠率は、体外受精に匹敵する報告もあります。

円筒状の伸長性バルーンカテーテルとその内側に直径1 mm位の細さのカメラを組み込んだシステムで、卵管内腔を直接観察しながら、閉塞部分を拡張し治療します。術後は入院せずに日帰りで帰宅できます。

FTカテーテル術は、所得に応じ自己負担額が異なるものの、保険が適用されます。高額医療費制度が適応され、高額医療費の申請により所得に応じ、自己負担額は約5万6千円から8万7千円です。

精液検査

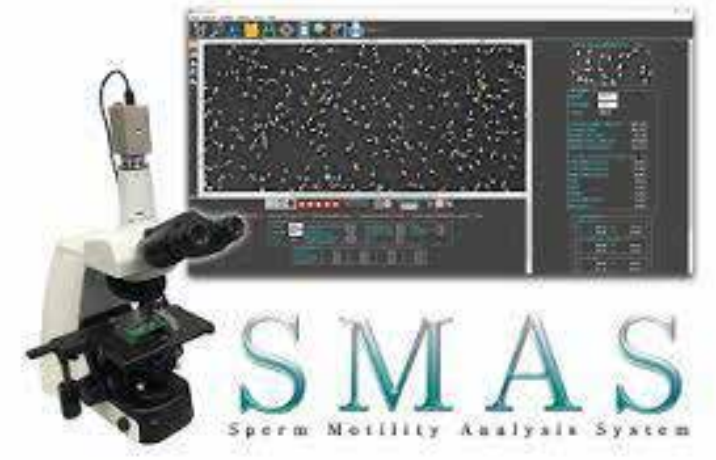
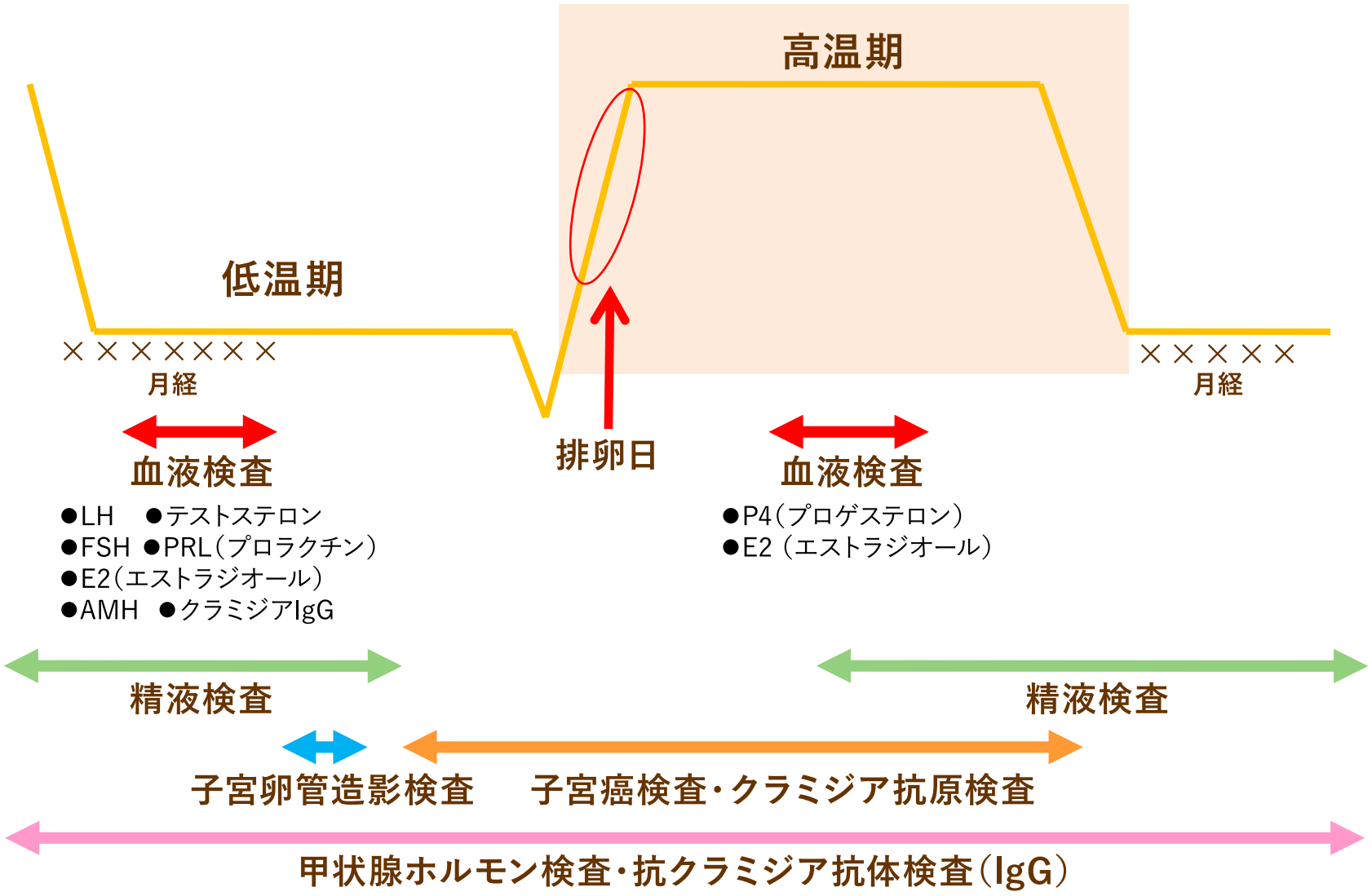
不妊の原因を精液から診断するための検査です
当院では精子運動解析装置（SMAS）を用いた詳細な検査を行っております。

■精子運動解析装置（SMAS）とは

高精度のカメラとコンピューターによって運動する精子を自動追尾し、動きの速い・遅い・不動の精子濃度など詳細に解析することで、従来の精液検査よりも優れた精液検査を行うことができます。これにより、人工授精や体外受精の成績向上に期待できます。
SMASと培養士によるダブルチェック体制で精液検査を行うことで、より詳細に確実な精液検査を行うことができます。

■精子運動解析装置（SMAS）とは

検査項目	基準値
精液量	1.5 ml以上
精子濃度	15×106/ml 以上
運動精子濃度	精子濃度の40%以上
正常形態率	4%以上



不妊治療に関する検査（検査時期の目安）